

水 道 工 事 仕 様 書

令和 6 年 5 月

袋井市環境水道部水道課

※赤字は修正又は追記箇所

1. 総 則(目的及び適用)

- (1) この仕様書は、袋井市が発注する水道工事に適用し、工事を適正に施工するため、効率性、安全性及び品質の確保を目的に必要な事項を示すものである。
- (2) 本工事を施工するにあたっては、建設工事請負契約書、袋井市建設工事請負契約約款、設計図書、土木工事共通仕様書（静岡県交通基盤部監修）、袋井市建設工事執行規則及び水道に関する条例、規則に定めるもののほか、道路（河川）占用許可条件書や現場指示事項によるものとする。
- (3) この仕様書に定めのない事項、または、この工事の施工にあたり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督員と協議するものとする。

2. 保証期間

この工事が完了して引渡しの日（検査合格通知日）より起算して、2年以内に生じた配水管等の漏水、あるいは路面に凹凸が生じたり、構造物、計装用機器類に変形もしくは、故障が生じた場合は、受注者の責任においてこれを復旧及び修理、または取り替えをすること。

3. 製品の指定

この工事において使用する製品は、別表「主要資材及び承認業者」により選定しなければならない。製品は、日本産業規格（JIS）や日本水道協会規格（JWWA）、日本水道協会の型式登録の検査合格品でなければならない。

また、別表の記載のないものについては、監督員と協議し承諾されたものとする。

4. 工事一般

(1)関係者への説明

受注者は、工事着手前並びに必要なに応じて、施工箇所周辺の住民や本管切替工事における断水区域に該当する住民等、関係者への説明を十分に行うこと。

(2)事前調査

a. 構造物調査

受注者は、工事施工に伴い、近隣の構造物等への影響が生じると予想される場合は事前調査を行い、その結果を監督員に報告すること。

b. 試掘調査及び支障物件の取扱い

受注者は、必要に応じて試掘調査を行い、埋設物の位置を確認し、支障箇所について監督員に報告し指示を受けること。

また、工事中、受注者の施工原因において、支障となる地上構造物、地下埋設物、道路構造物、家屋、塀への損傷などの補償等が生じた場合については、受注者の負担を原則とする。

c. 資材置き場

農地法により農地以外の利用が認められない場所への資材を置くことは禁止されています。資材置き場については、監督員へ報告すること。

(3) 使用材料

ダクティル鋳鉄管（DIP）については、直管・継手類・異形管のすべて「内面粉体塗装」のものを使用すること。

(4) 使用材料の検収及び品質

- a. 検収にあたっては、監督員と検収日時や立会の是非等を協議の上、施工前に材料検収を受けなければならない。
- b. 材料承認願に添付する書類は、メーカーリスト表・品質証明書・その他監督員が必要と認めるものとする。
- c. 使用する材料にあつては、使用するまでに材質に変質が生じないように保管しなければならない。

(5) 掘削工

- a. 土木工事共通仕様書（静岡県交通基盤部監修）の第1編（共通編）第2章（土工）によるものとする。
- b. 掘削幅は、「【別紙4】掘削幅及びサンドクッション施工厚一覧表」によるものとする。

(6) サンドクッション工

- a. 使用材料は再生砂とし、施工前に、六価クロム溶出試験（環境庁告示46号溶出試験）を1現場当たり1回実施し、基準値以下であることを監督員に報告すること。なお、再生砂以外を使用する場合は監督員と協議し、承諾されたものとする。

●基準値：0.05mg/ℓ以下

- b. 砂は、管の損傷や衝撃荷重及び移動が生じないように慎重に投入すること。
また、管の周辺には間隙が生じないように砂が充分に入るようにバイブレータ、コンパクタ等で施工し、締固めなければならない。
- c. 施工厚は、「【別紙4】掘削幅及びサンドクッション施工厚一覧表」によるものとする。

(7) 埋戻工

- a. 埋戻材料は、設計図書で定められたもので施工すること。尚、現場の状況等により変更が必要な場合は、監督員と協議し決定すること。
- b. 埋戻材料を変更する場合は、盛土材料取扱基準に定められた路床材で施工すること。
- c. タンパあるいはランマーで転圧する際、過重な偏土圧のかからないように締固めなければならない。仕上厚においては、施工場所が官地側の場合は一層仕上厚20cm以下とし、民地側の場合は一層仕上厚30cm以下で施工すること。

(8) 管布設工

- a. 管の接合に先立ち、その内部を点検し、切りくず、ごみ等を十分に除去、清掃し、通水時の濁りを最小限に抑えることに努めること。
- b. 伏越部・添架部及び曲管には離脱防止の措置を講ずること。
- c. 管布設に際して、縦横断的に地下埋設物や地上構造物等と接近する可能性が生じた場合は、すみやかに監督員に報告し、必ず関係者に確認し施工すること。

- d. 管布設位置に地下埋設物があり迂回または伏越する等で、異形管が必要となる場合、監督員に報告・協議し、指示を受けなければならない。
- e. 配水管等の設置位置は、監督員と協議（現地立会を含む。）し決定すること。
- f. 廃止された既設管の仕切弁、消火栓、空気弁及び鉄蓋等は撤去処分を行い、撤去箇所について監督員に報告すること。
- g. 管布設後、 $\phi 50\text{mm}$ 以上の管路については、管上に表示テープ（西暦版）を貼り付けること。
- h. 埋設表示シートの位置は管頂から概ね 30～40cm 上に敷設すること。
- i. 排泥管の出し口は側溝等の内側より 50mm を標準とすること。
- j. HPPE 管の最小切管長については、配水用ポリエチレンパイプ協会の施工マニュアルに準じること。

(9) 舗装版取壊し工、復旧工

- a. 切断においては、原則バキューム式カッターにて切断後、濁水を吸引し産業廃棄物として市指定の処分先で処分し、完成時マニフェストを提出すること。
- b. 道路占用基準に基づき、仮復旧後 1 ヶ月間の自然転圧を行い、その後すみやかに復旧すること。ただし、自然転圧期間が不足となる場合は、監督員に報告並びに協議すること。

(10) 断水工事

- a. 断水工事をする場合は、切替実施計画書（断水区域図、お知らせ通知も作成し、添付）を 7 日前（土日祝を除く。）に監督員に提出すること。
- b. 断水工事の日時・工程等は、監督員の指示に従い、断水時間を最小限にするよう努めなければならない。

(11) 水圧試験

水圧試験は、(社)日本水道協会「水道施設設計指針」に基づき、初圧設定後、必ず監督員の立会を行い、次の合格基準を満たさなければならない。これに要する計装用機器類、材料費・労務費等は受注者の負担とする。

●合格基準：初圧 0.74Mpa → 24時間経過後 0.64Mpa 以上

(12) 交通安全管理

交差点内における施工や夜間工事を行う場合については、標識配置図・交通整理計画図等を作成し、監督員並びに道路管理者、袋井警察署と協議のうえ施工しなければならない。

(13) 出来形管理・写真管理・竣工図・給水台帳

出来形管理及び写真管理等については、「【別紙 1】出来形管理基準及び規格値」「【別紙 2】写真管理基準」「【別紙 3】竣工図作成要領」によるものとする。また、給水台帳については、「給水工事マニュアル」に準じ作成するものとする。

(14) 完成

工事完成後すみやかに完成図書（完成届出書・出来形管理資料・工事記録写真・竣工図）その他監督員が必要と認めた書類を完成期限までに提出すること。

と。

GX形継手 チェックシート(直管・P-Link)

令和 年 月 日

工事名						管理又は主任技術者	現場代理人
図面No.・測点							
呼び径							

1 直管

b: チェックゲージの入り込み量

2

3 P-Link 締め付けトルク: 100N・m

b: チェックゲージの入り込み量

4 締め付けトルク: 100N・m

b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	8～18
100	8～18
150	11～21
200	11～21
250	11～21
300	14～24
350	14～25
400	14～25

5 (直管挿し口を挿入する場合)

6 (異形管挿し口、P-Linkを挿入する場合)

b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	54～63
100	57～66
150	57～66
200	63～72
250	63～72
300	70～80

5 (直管挿し口を挿入する場合)

6 (異形管挿し口、P-Linkを挿入する場合)

管 No.							
管の種類							
略図/ライナ							
継手 No.							—
挿し口突部の有無							—
清掃・異物の除去							—
ライナの位置確認(d部)※1							5 6
受口溝(ロッキング)の確認							—
挿し口の挿入量の明示							4 5
爪、押しボルトの確認(P-Link)							—
滑 剤							—
マーキング(白線)位置の確認※2							4 5
挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離の確認(異形管挿し口)※3							6
マーキング(白線)の明示(異形管挿し口)※4							6
受口端面～ゴム輪 間隔(b)※5	全周チェック						1 3
	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
受口端面～白線 間隔(a) ^{注)}	①						2
	③						4
	⑤						
	⑦						
押しボルト	本数						4
	トルク確認						
判 定							—
備 考							

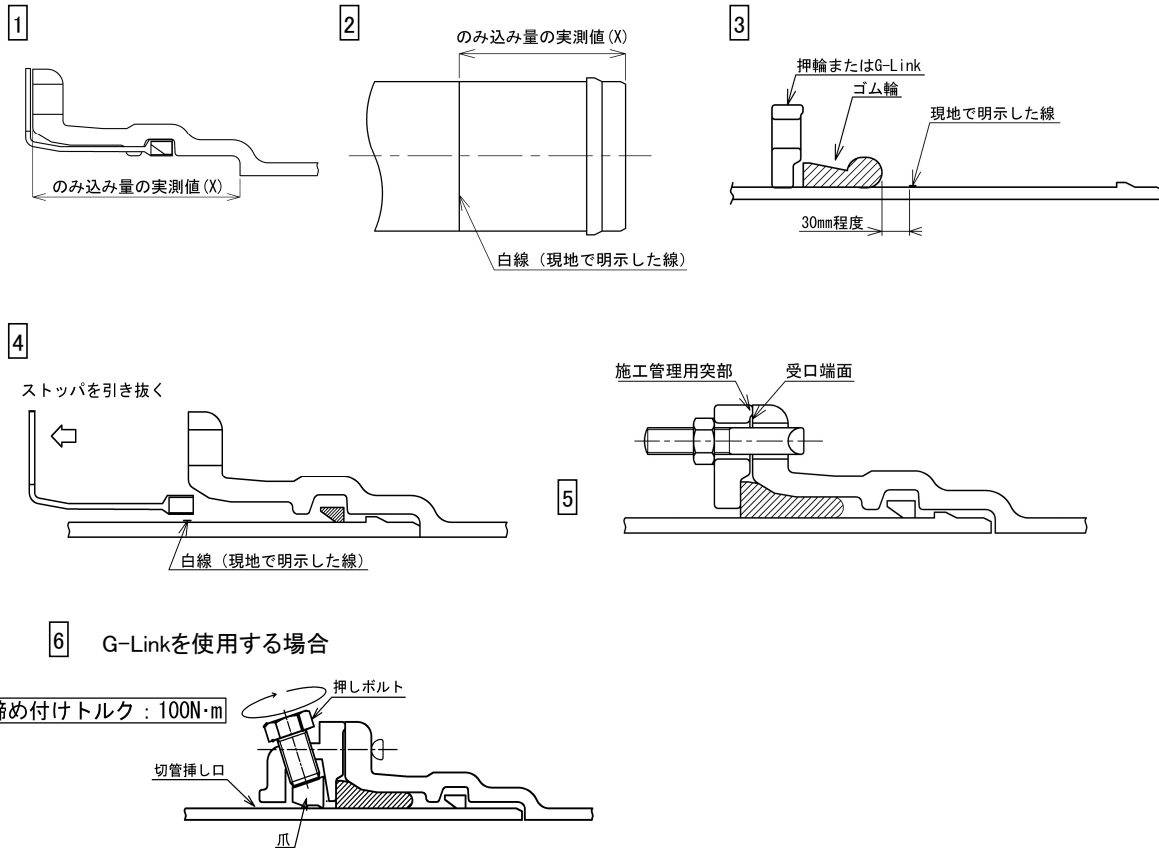
判定基準 : ※1 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
 ※2 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
 ※3 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
 ※4 挿し口外周へ受口端面位置の白線を表示したか確認する。
 ※5 受口端面～ゴム輪間隔(b)が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
 注) P-Linkの場合は受口端面からの直部長さ 4 a寸法を記入する。

GX形継手 チェックシート(異形管・G-Link)

令和 年 月 日

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

管理又は主任技術者	現場代理人



管 No.									
管の種類									
略図									
継手 No.									—
挿し口突部の有無 ^{注)}									—
清掃・異物の除去									—
ロックリング、ストップの確認									—
挿し口の挿入量の明示									1 2
爪、押しボルトの確認(G-Link)									—
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認									3
滑 剤									—
ストップの引き抜き									4
抜け出しチェック(挿し口突部有り)※2									—
T頭ボルト	本数								5
受口端面～ 施工管理用突部 の隙間 ※1	箇所数								5
	隙間ゲージ 確認								
押しボルト	本数								6
	トルク確認								
判 定									—
備 考									

判定基準 ※1 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

※2 挿し口を異形管受口に挿入し、ストップを取り外した後、挿し口を上下左右前後に振って抜けないことを確認する。

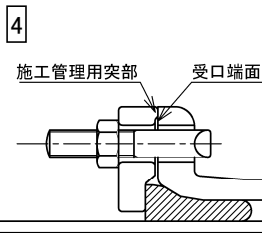
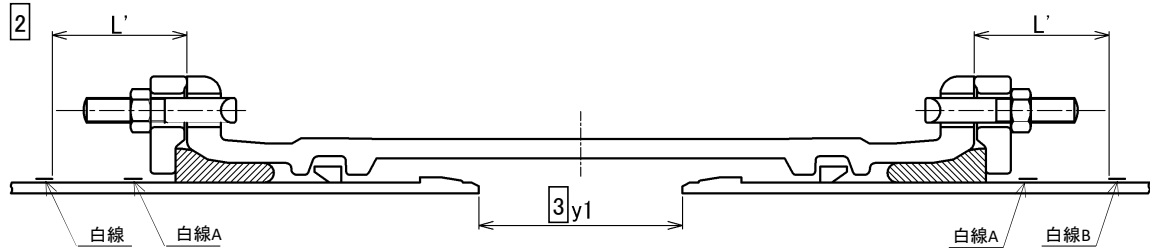
注) 挿し口突部のない挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

GX形継手 継ぎ輪チェックシート

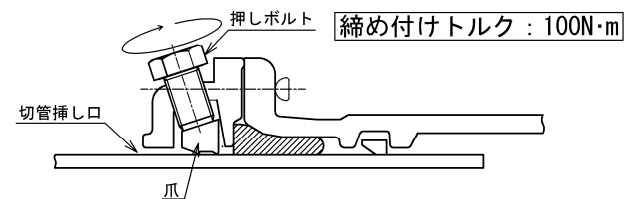
令和 年 月 日

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

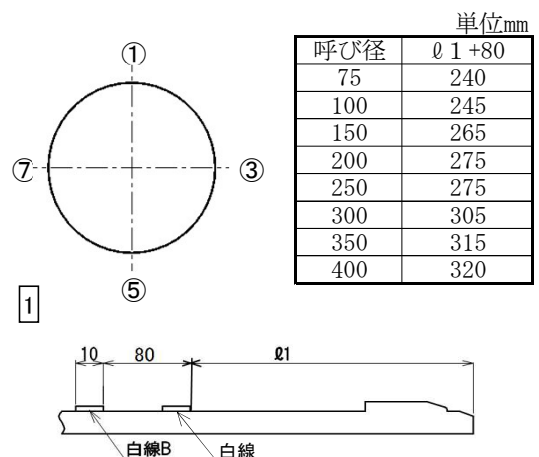
管理又は主任技術者	現場代理人



5 G-Linkを使用する場合



管 No.			
管の種類			
略図			
継手 No.			—
挿し口突部の有無 ^{注1)}			—
清掃・異物の除去			—
白線A,Bの明示			1
爪、押しボルトの確認(G-Link)			—
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認			—
滑 剤			—
ロックリング、ストップの確認			—
ストップの引き抜き			—
受口端面～ 白線の間隔 (L') ^{注2)}	① ③ ⑤ ⑦		2
両挿し口端の 間隔 (y1) ^{注2)}	① ③ ⑤ ⑦		3
T頭ボルト	本数		4
受口端面～ 施工管理用突部 の隙間 ※	箇所数 隙間ゲージ 確認		4
押しボルト	本数 トルク確認		5
判 定			



(i) 一方から順次配管していく場合

単位mm

呼び径	L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135
350	145
400	150

(ii) せめ配管の場合

単位mm

呼び径	y1
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
350	300
400	300

判定基準 ※ 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

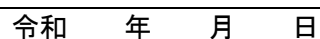
注1) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

注2) 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

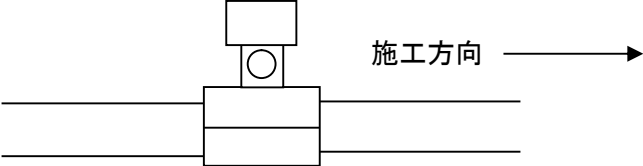
EFソケット 接合チェックシート

EF接合チェックシート

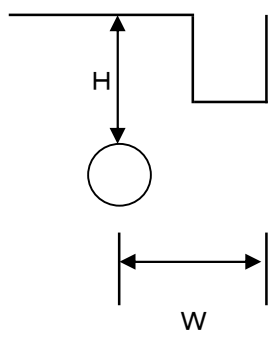
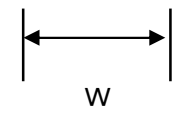
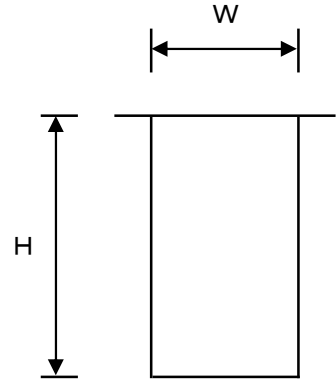
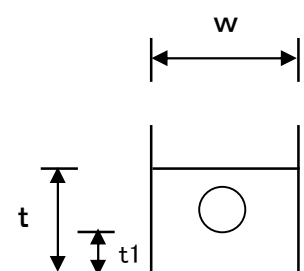
正常作動確認：



E F サドル 接合チェックシート

E F 接合チェックシート										
工事名：										
呼び径 mm				施工箇所：						
発電機の仕様：						コントローラの仕様：				
正常作動確認：						正常作動確認：				
										
継 手 No.										
略 図										
天候										
陸継ぎの有無										
湧水の有無										
管の点検・清掃										
スクレープ										
エタノール(アセトン)清掃										
標線の確認										
通電終了時刻										
インジケータの確認										
クランプ取り外し時刻										
埋戻し開始時刻										
接合総合判定										
備考：										
施工年月日				施工会社名			管理又は主任技術者		現場代理人	
令和 年 月 日										

【別紙1】出来形管理基準及び規格値

工種		測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
管布設工 (圧力管)		埋設深 (H)	±30		施工延長80mにつき 1箇所、施工延長80m 以下のものは1施工 箇所につき1箇所		
		埋設位置 (水平) (W)	±50				
		延長 (L)	L<10m	-20	1 施工箇所毎		
			L ≥ 10m L < 100m	-50			
			L ≥ 100m	-100			
		継手チェック	別紙チェック表		継手箇所毎	DIP(GX)等	
土工	掘削	掘削深 (H)	-30		施工延長80mにつき 1箇所、施工延長80m 以下のものは1施工 箇所につき1箇所		
		掘削幅 (W)	-50				
	サンド クッション	厚さ(t)	-30		施工延長80mにつき 1箇所、施工延長80m 以下のものは1施工 箇所につき1箇所		
		厚さ(t1)	設計値以上				
		幅 (w)	-50				

※舗装工については、土木共通仕様書に準拠すること。

【別紙2】写真管理基準

区分	工程		項目			摘要								
			撮影項目	撮影時期	撮影頻度	出来形 品質	提出書類	立会	受注者 確認欄					
着手前・完成	着手前 完成		全景又は代表部分写真	着手 完成	着手前1回 施工完了後1回									
施工状況写真	管路土工	機械掘削	掘削・積込状況	施工中	80m又は1施工箇所に1回、 給水工は全箇所数の1割程度	出来形		○						
			床均し状況	施工中										
		床均し完了	修正後											
		サンドクッション	サンドクッション転圧状況	施工中		出来形		○						
			サンドクッション転圧完了(管下・全厚)	修正後										
		機械埋戻	埋戻・転圧状況(各層毎)	施工中										
	埋戻・転圧完了(各層毎)		修正後											
	管布設工	共通	残土処分	施工中	1施工箇所に1回									
			残土処分場(許可看板含む)	施工中										
			DIP	管接合状況(一連作業)		施工中	80m又は1施工箇所に1回	出来形		○				
				管布設完了(埋設深・埋設位置)		布設後			全箇所数					
				異形管詳細(実測)		布設後								
				清掃状況		施工中								
	HPPE	清材塗布状況	施工中	80m又は1施工箇所に1回										
		挿入状況	施工中											
		挿入完了	挿入後											
		ゲージ確認状況	挿入後											
	給水工	共通	管切断状況	施工中	全箇所数	出来形		○						
			面取り状況	施工中										
			清掃状況	施工中										
			融着接合状況	施工中										
			融着接合完了	接合後										
			インシゲーター隆起状況	接合後										
	弁類・空気弁・ 消火栓設置工	弁類等設置	管切断状況	施工中	全箇所数の1割程度	出来形		○						
			融着面切削状況	施工中										
			分水サドル取付・穿孔状況	施工中			全箇所数		出来形	分水計画書	○			
			穿孔片確認	穿孔後										
			密着コア取付状況(DIP)	施工中										
			管布設完了(埋設深・埋設位置)	布設後										
	管表示類設置工	P.S被覆	弁類等設置完了	設置後	全箇所数									
			弁室築造完了	設置後										
			埋設表示シート	シート設置状況			施工中	1施工箇所に1回						
			管明示テープ	テープ貼付状況(管径φ50mm以上)			施工中							
			ポリエチレンスリーブ被覆状況	施工中										
			舗装工	路盤(上・下)			不陸修正		施工中	適宜	出来形		品質	品質結果報告書
	路盤出来形確認(厚さ・幅)	施工後			各層毎80mに1回									
路盤材敷均し状況	施工中													
路盤材転圧状況(各層毎)	施工中	路盤の種類毎に1回												
路盤材転圧完了(各層毎)	施工後													
現場密度状況(300m2超える)	施工後													
乳剤・砂散布状況	施工中		乳剤の種類毎に1回											
乳剤・砂散布完了	施工後													
仮舗装	表層	仮舗装出来形確認(厚さ・幅)		施工中	各層毎80mに1回	出来形 出来形								
		表層出来形確認(厚さ・幅)		施工後										
		合材敷均し状況		施工中			合材の種類毎に1回	品質						
		合材転圧状況		施工中										
		合材温度測定状況 (到着・敷均し・開放)	施工中											
		現場密度状況(300m2超える)	施工後	品質										
区画線	施工後	1施工箇所に1回												
区画線設置状況	施工中													
取壊し工	舗装版(As.Co)		舗装版切断状況	施工中	1施工箇所に1回	出来形								
		舗装版掘削・積込状況	施工中											
		取壊形状寸法確認	施工前	各種類毎に1回			出来形							
		切削・積込状況	施工中											
		構造物取壊し状況	施工中					1施工箇所に1回	出来形					
		取壊形状寸法確認	施工前											
舗装設置運搬状況	施工中	1施工箇所に1回												
Co設(無筋・鉄筋)運搬状況	施工中													
敷処分場(許可看板含む)	施工中													
建設汚泥回収状況	施工中													
仮設工	E7バック設置	建設汚泥処分場(許可看板含む)	施工中	全箇所数	出来形	分水計画書	○							
		分水サドル取付・穿孔状況	施工中											
		穿孔片確認	施工中					1施工箇所に1回						
		E7バック設置・撤去状況	施工中											
		仮設材形状寸法確認	設置前									各材料毎に1回	○	
		鋼矢板建込状況	施工中											
鋼矢板設置完了	設置後	1施工箇所に1回	出来形	○										
水中ポンプ設置状況	施工中				適宜									
安全管理	安全管理	各種標識類設置状況(施工体制関係含む)	施工中	各種類毎に1回				○						
		各種保安施設設置状況	施工中											
		交通誘導警備員整理状況	施工中						1施工箇所に1回					
		夜間時作動確認状況	施工後											
使用材料	使用材料	材料検収状況	施工前	各品目毎に1回	品質 品質		○ 協議							
		追加材料検収状況	施工前											
品質管理写真		土木工事共通仕様書並びに本表摘要欄のとおり												
出来形管理写真		土木工事共通仕様書並びに本表摘要欄のとおり												
その他	水圧試験	環境対策	初圧確認(0.74Mpa)	設置後	実施毎に1回又は全箇所数	品質 品質 品質	分水計画書	○						
			終圧確認(0.64Mpa以上)	24h後										
			不斷水割1手管(製品の取扱説明書による)	設置後					機種毎に1回					
			建設機械適合マーク確認	施工中										
創意工夫・社会貢献・高度技術	創意工夫・社会貢献・高度技術	創意工夫・社会貢献・高度技術	各施設設置状況(資材置場・現場事務所)	施工中	適宜									
			創意工夫等実施状況	施工中						適宜				

※管路土工・管布設工の監督員立会対象工事は、当初請負金額300万円以上とする。

※記載のないものについては、監督員と協議すること。

※舗装工の現場密度の測定等については、土木共通仕様書に準拠すること。

【別紙3】竣工図作成要領

※竣工図には、舗装展開図等はいれない

《目的》

竣工図は、配水系統や使用している送・配水管の口径、管種、給水管等の位置を特定し把握するために欠くことのできない維持管理上の基礎資料となり、市民サービスや災害時の復旧作業等、管理を適正に行うことを目的としている。

《注意事項》

- 水道管は地下埋設物であり、目視確認が出来ないため正確に記述すること。
- 作成は下記の各事項を厳守し、紙媒体を1部かつ電子データを(SFC又はJWW及びPDF)提出すること。
ただし、電子データのファイル形式が異なる場合は、監督員と協議すること。

1 図面構成・タイトル

- ① 図面サイズは見やすい大きさで
- ② 工事年度・入札が見積・工事番号 (R6入(見)●●)
- ③ タイトルに工事名・工事箇所・図名・図面番号・業者名を記載
- ④ 平面図・異形管詳細図・給水工詳細図・標準断面図・土工定規図の構成とする

2 平面図

- ① 県道名・市道名・河川名・公共施設名・方位を記載
- ② 本管は管体延長・平面延長・管径・管種・継手方式を記載
- ③ 給水管は弁類よりの距離・埋設深さ・管種・管径を記載
- ④ 仮設配管についても埋設位置を図面に記入
- ⑤ 弁類・曲管・T字管の位置をオフセット(2点以上)表示
- ⑥ 既設管(接続部)の埋設深・管径・管種を表示

3 異形管詳細図・給水工詳細図

- ① 切管の延長を表示
- ② 異形管の配置及び受け挿し方向を正確に表示

4 標準断面図・土工定規図

- ① 標準断面図は、道路端よりの位置・管土被り・管種・管径を表示
- ② 標準断面図は、路線ごとに作成(埋設位置の変化ごとに)
- ③ 土工定規図は、舗装構成・埋戻土の種類を表示

平面図 凡例	既設	-----	排泥弁	—(D)—
	新設	—————	空気弁	—(A)—
	仕切弁	—(X)—	空気弁付き 消火栓	—(AH)—
	消火栓	—(H)—	仮設	- - - - -

【別紙4】掘削幅及びサントクッション施工厚一覧表

(単位:mm)

R5.4～					
管種	管径	掘削幅 (サントクッション)	サントクッション		
			総厚	管天	管下
HVP	φ 13	600	200	100まで	100以上
	φ 20	600	200	100まで	100以上
	φ 25	600	200	100まで	100以上
	φ 30	600	200	100まで	100以上
	φ 40	600	200	100まで	100以上
	φ 50	600	250	100まで	100以上
	φ 75	600	250	100まで	100以上
	φ 100	600	300	100まで	100以上
DIP	φ 75	600	190	100まで	0
	φ 100	600	210	100まで	0
	φ 150	600	260	100まで	0
	φ 200	600	320	100まで	0
	φ 250	650	370	100まで	0
	φ 300	700	420	100まで	0
	φ 350	900	470	100まで	0
	φ 400	950	520	100まで	0
	φ 450	1000	570	100まで	0
	φ 500	1050	620	100まで	0
PE	φ 13	600	200	100まで	100以上
	φ 20	600	200	100まで	100以上
	φ 25	600	200	100まで	100以上
	φ 30	600	200	100まで	100以上
	φ 40	600	200	100まで	100以上
	φ 50	600	250	100まで	100以上
HPPE	φ 50	600	250	100まで	100以上
	φ 75	600	250	100まで	100以上
	φ 100	600	300	100まで	100以上
	φ 150	600	350	100まで	100以上
	φ 200	600	450	100まで	100以上

【別表】主要資材及び承認業者

区分	名 称	記号・名称	規格番号	承認業者
HIVP	水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管	HIVP	JWWA-K118、AS22	積水化学工業(株) 株クボタケミックス
	水道用耐衝撃性塩化ビニル管継手類	HIVP●●	JWWA-K119、AS23	積水化学工業(株) 株クボタケミックス
DIP	水道用タタイル鑄鉄管(1・S種管) (内面粉体塗装)	DIP-GX	JDPA G 1049	株クボタ 日本鑄鉄管(株) 株栗本鐵工所
	水道用タタイル鑄鉄管異形管 (内面粉体塗装)	DIP-GX●●	JDPA G 1049	株クボタ 日本鑄鉄管(株) 株栗本鐵工所
	水道用ソフトシール仕切弁	DIP-GX ソフトシール弁	JDPA G 1049	株清水合金製作所 株クボタ 株栗本鐵工所
HPPE	水道配水用ポリエチレン管	HPPE	JWWA-K144	積水化学工業(株) 株クボタケミックス
	水道配水用ポリエチレン管継手類	HPPE●●	JWWA-K145	積水化学工業(株) 株クボタケミックス
栓・弁 類	水道用地下式消火栓 (内外面粉体塗装・ステンレス製)	消火栓	JWWA-B103	宮部鉄工(株) 株クボタ 株ハズ 株栗本鐵工所 前澤工業(株) 角田鉄工(株) 株清水合金製作所 清水工業(株)
	空気弁付地下式消火栓 (内外面粉体塗装)	空気弁付 消火栓		宮部鉄工(株) 株清水合金製作所
	青銅製ソフト型仕切弁	青銅ソフト弁		栗本商事(株) 前田バルブ工業(株) 前澤給装工業(株)
	不凍急速空気弁	MAV		明和工業(株)
	水道用ソフトシール仕切弁	ソフトシール弁	JWWA-B120	株クボタ、幡豆工業(株) 株栗本鐵工所 株清水鐵工所 前澤工業(株) 角田鉄工(株) 株清水合金製作所
	仕切弁ボックス類	仕切弁ボックス		アクアインテック(株) 日之出水道機器(株) 株トミス
	排泥弁ボックス類	排泥弁ボックス		アクアインテック(株) 日之出水道機器(株) 株トミス
	空気弁ボックス類	空気弁ボックス		アクアインテック(株) 長島鑄物(株)
	カムレバー式急速空気弁	急速空気弁	JWWA B137	協和工業(株)
	水道用空気弁	空気弁	JIS-B2063	宮部鉄工(株) 清水工業(株) 角田鉄工(株) 株清水合金製作所
	小型空気弁 (ステンレス製凍結防止用保護ケース付)	小型空気弁		宮部鉄工(株) 前田バルブ工業(株) 角田鉄工(株) 清水工業(株) 前澤給装工業(株)
	消火栓ボックス類	消火栓ボックス		アクアインテック(株) 長島鑄物(株)

区分	名 称	記号・名称	規格番号	承認業者
栓・弁 類	水道用補修弁 (ボールキャップ式・内面粉体塗装・ステン レス製)	補修弁	JWWA-B126	宮部鉄工(株) (株)クボタ (株)ハズ (株)栗本鐵工所 前澤工業(株) 角田鉄工(株) (株)清水合金製作所 清水工業(株)
	メーターBOX	HCP・MB		日之出水道機器(株) 前澤化成工業(株) アロン化成(株)
割T字	不断水三ツ割(ニツ割)T字管	不断水T字管		コスモ工機(株) 大成機工(株)
PE	水道用ポリエチレン管(二層管)	PE	JIS-K6762	(株)イノアックコーポレーション (株)クボタケミックス 日本プラスチック工業(株)
	水道用ポリエチレン管継手類	CP●●		前田バルブ工業(株) (株)タブチ 前澤給装工業(株)
	水道用サドル付分水栓 (ナイロン12)(ガイドナット・メタルパッキ ン含む)二方取り出し	●●用分岐帯	JWWA-B117	前田バルブ工業(株) 前澤給装工業(株) 栗本商事(株) (株)タブチ 名古屋バルブ工業(株)
VLP	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	VLP	JWWA-K116	積水化学工業(株) JFEスチール(株) 日本製鉄(株) 日立金属(株)
	水道用樹脂コーティング鋼管継手類	VLP●●	JWWA-K117	東海鋼管(株)
	水道用ナイロコート鋼管 (ナイロン12)	SGP-NC		東海鋼管(株) (株)興和工業所 (株)多久製作所
止水栓	副弁付止水栓 (ガイドナット、メタルパッキン含む)	ツインバルブ		前田バルブ工業(株) 前澤給装工業(株) (株)タブチ
補強金具 類	フランジ接合補強金具	接合補強金具		協和工業(株) (株)清水合金製作所
	補強金具	補強金具		大成機工(株)

《注》 仕切弁籠について、官地については市章のあるもの、民地には市章のないものを用いる。